

二	事業の概要
---	-------

(1) 中長期計画および2019年度事業計画の進捗・達成状況

<「中内学園中長期計画（第三次）2017年度～2019年度」の達成状況>

1. 教育改革（夢の種プロジェクト（なりたい自分を発見し、夢に近づく4年間）の構築）

・気づきの教育の更なる進化

2015年度より導入された「気づきの教育」について、2017年度～2019年度、以下の新たな要素を組み込み実施

- ▶ 新入生全員とクラス担当教員との個人面談による徹底的な学生個別サポート
- ▶ ルール・マナー教育により、4年間の学生生活を送る上でベースとなる行動・知識を修得
- ▶ 出身高校への手紙講座等で、ビジネス文書作成の基礎的なスキルを修得
- ▶ 講義時間外で、日本人・留学生との会話の場を設け、共に行動をして、身近な国際交流を体験
- ▶ 学修ポートフォリオを活用した目標設定プログラムを実施。最後に「成果の発表」を実施し、学生自身が入学から半年間を振り返り、将来の目標が明確になったかを確認。約7割がなりたい自分が「決まった」「少し決まった」と回答

・授業改革

知識を知恵に変える力、考える力、論理的思考力、創造力、コミュニケーション力、ビジネスパーソンに必要な最低限の知識を身につけるため、全ての授業を「知識教授型授業」から「考える学習型授業」へと変革するための施策を実施。

- ▶ 「考える学習型授業」の導入
- ▶ 定期試験における試験持ち込み条件「全て可」導入
- ▶ 成績評価の在り方見直し
- ▶ 「なりたい自分ガイド」19業種完成、気づきの教育内での活用
- ▶ プレゼンテーション能力向上のための科目開講

・就職改革

ゼミを基本とした就職活動体制づくり、低年次からの職業観醸成を行うための施策を実施

- ▶ ゼミ担当教員と就職部員との情報共有、スキルアップのための研修・勉強会
- ▶ 2年生就職ガイダンスの実施
- ▶ キャリア科目の充実
- ▶ 岡山県、島根県、香川県との就職協定締結による情報交換、マッチング促進

2. 入試改革（本学の育てたい学生像に沿った入試の構築と実施）

・商業系等資格特別推薦入試

協定校、中四国の商業系高校を主なターゲットとし、ビジネスパーソンを育てる本学の教育を学びたいという受験生を対象とした入試の更なる進化

・プレゼンテーション入試

考える力、論理的思考力、創造力、判断力、ビジネスパーソンとしてのポテンシャルを持ち、ビジネスパーソンを育てる本学の教育を学びたいという受験生を対象とした入試の導入・運用

3. 組織・オペレーション改革（教職員一体となった組織運営）

・教育改革・カリキュラム改訂を推進する体制として、教育改革プロジェクト、大学戦略検討チームを学長直轄組織として設置、運営

▶教育改革プロジェクト

主旨：学長からの教育改革及びカリキュラム改訂に関する諮問に応じて、審議・調査を行い、答申する。

メンバー：教務担当副学長（リーダー）、学生担当副学長、商学部長、経済学部長、人間社会学部長、大学事務局長、教務部次長、（事務局）教務部

成果：「考える学習型授業」を通じた論理的思考力等の汎用的能力の育成、及び社会人としての基礎的能力の確実な修得を目指した授業改革を推進するための基盤を築くことに重点をおいた新カリキュラムの構築・運用

▶大学戦略検討チーム

主旨：大学の戦略を検討する「大学戦略検討チーム」を学長の下におき、商業系高校との関係強化に関する方針、全学的な（流通）マーケティング分野強化に関する方針を検討する。

メンバー：清水教授（リーダー）、後藤准教授、川合准教授、（事務局）学長室

成果：トライやるイヤー制度（学生自身が将来の夢や目標、自分の興味を、徹底的かつ集中的に突き詰め、大きく成長するための学外でのさまざまなチャレンジを支援する制度）の構築、学生の参画

4. 評価制度の見直し（教育改革と連動した教職員評価制度の見直し）

・大学に貢献度の高い教員の顕彰

▶流通科学大学が求める教員像に沿った教職員評価制度の見直しを実施。

「流通科学大学が求める教員像」

流通科学大学が目指す教育とは、単に学生に知識を授けることではなく、どのような環境変化の中にあっても、学生自らが自立・自活して力強く未来を切り拓いていくことができるような知恵と力とを身につけていくことにある。仲間の学生や教職員と大学生活を共にすることを通じて、本学の一員となった学生が「ネアカ・のびのび・へこたれず」の精神を体現した卒業生に成長し、社会に巣立っていくことを本学は目指している。

そのために、本学教員には、同僚である教職員と協調・連携し、それぞれの専門性に裏付けられた確かな教育力と豊かな人間性、深い愛情をもってこのような学生の主体的な成長を粘り強く支えることが求められる。これら本学の使命を実現し、本学の価値を持続的に高めていくため、本学の教員には次のような姿勢、能力および行動が求められる。

[姿勢]

- 教育者として、またそれを支える専門性をもった研究者として、高い倫理観を備え、本学の建学の精神ならびに「卒業認定・学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」および「入学者受入れの方針」に込められた理念を深く理解し、全学的視点に立ってその実現に努める
- 大学は学生が主体的に学び成長する場であることを認識し、学生が将来の夢や目標を見だし、それを実現することができるよう、学生生活全般を通じて学生に寄り添う姿勢をもつ

[能力]

- 幅広い専門性と確かな教育技能に支えられ、豊かな人間性と学生に対する深い愛情に裏付けられた、高い教育力をもつ
- 学内外の資源や、自ら築き上げたネットワークを活用して、学生の成長につながる教育プログラムを実現する力をもつ

[行動]

- 単に既成の知識を伝授するのではなく、新たな価値を探求・創造し、最新の情報を提供することで、未来を生き抜く知恵と力になるような10年先、20年先を見据えた実学教育を実践する
- 性急に学生を教え導くのではなく、学生が本来もっている力を引き出し、さまざまな経験を通じて学生自らの力で成長していくのを根気強く支えるとともに、学生が失敗を恐れず何事にも挑戦できるようサポートする
- 本学の目指す教育がよりよく実現できるよう、自ら、あるいは同僚である教職員と協働して、より効果的な教材や教育方法の開発に努め本学全体の教育力の向上をはかる
- 社会に有為な人財を育成することにより、また自らもその専門性を活かして、地域社会や産業の発展をはじめ、広く社会に貢献する

「主な教員評価項目の変更点」

教育活動 50%、研究活動 30%、大学運営・社会貢献活動 20%の割合を、教育活動 70%、研究活動 20%、大学運営・社会貢献活動 10%（研究活動重点パターン）もしくは、教育活動 70%、研究活動 10%、大学運営・社会貢献活動 20%（大学運営・社会貢献活動重点パターン）に変更。
※教員は「研究活動重点パターン」と「大学運営・社会貢献活動重点パターン」のいずれかを選択する

- ▶教員表彰制度について、本学が求める教員像を様々な分野で実践している教員を顕彰すべく、以下の通りの運用とした。

「表彰の対象」

- 教育の実践、教育プログラムの開発その他教育活動面での顕著な実績
- 学生の成長を支援する種々の企画・取組みに関する顕著な実績

- 研究活動面での顕著な業績
- 大学運営・社会貢献活動面での学園・大学の活動への多大な貢献
- ほか、学園・大学として顕彰に値すると認められる活動・行為

「表彰の内容」

表彰の対象の内容に照らして表彰者を決定する。

名称：「中内賞」・・・表彰状授与＋副賞

対象者：本学専任教員（特任教員を含む）

5. 戦略投資（3ヵ年の戦略投資）

・教育改革と連動した教室改修、既存施設有効利用、国際交流施設学生寮の竣工

▶考える学習型授業を実践するための教室改修

《2017年度》

- 講義棟Ⅰ中教室3室、講義棟Ⅱゼミ演習室14室、講義棟Ⅳ大教室1室、講義棟Ⅴ中教室7室の改修工事
- Wi-Fi環境整備 本部棟1F、講義棟Ⅰ3F、講義棟Ⅱ1F・2F、講義棟Ⅴ2F・3F、国際交流施設学生寮
- 授業改革ツール「クリッカー」導入

《2018年度》

- 講義棟Ⅰ大教室2室、講義棟Ⅱ中教室2室、講義棟Ⅲ中教室3室の改修工事
- Wi-Fi環境整備 講義棟Ⅰ1F・2F、講義棟Ⅲ1F、講義棟Ⅳ3F、講義棟Ⅴ1F

《2019年度》

- 講義棟Ⅱゼミ演習室2室、講義棟Ⅴ中教室2室の改修工事

▶学生ニーズに基づく提案を実現する既存施設有効利用

《2017年度》

- ワールドホール新設（旧保健室改装）、メディアセンター・学修支援センター・教務部改装および移転

《2018年度》

- レストラン南側ウッドデッキ設置、PCDルーム新設（旧イベントルーム改装）
※PCD-----Pleasantly:楽しく、Concentration:集中、Discussion:話し合い

▶日々の国際交流を通じてグローバルマインドを育む新型教育施設 国際交流施設学生寮の竣工
(2018年4月)

- 2018年度入寮者数86名（入寮志望者97名）
- 2019年度入寮者数63名（入寮志望者83名）
- 2020年度入寮者数65名（入寮志望者78名）

<2019 年度事業計画 達成状況>

※2019 年度事業は、「中内学園中長期計画（第三次）2017 年度～2019 年度」に基づく、単年度の事業計画であり、“オンリーワン・ナンバーワン”の構築、“夢の種プロジェクト（なりたい自分を発見し、夢に近づく4年間）の構築”を実現するためのものです。

1. 在籍者数 3,861 名（2020 年 5 月 1 日時点）（収容定員 3,600 名）
2. 入学者数 983 名（入学定員 900 名）
志願者数 4,925 名（前年度 4,742 名、前年度比 103.9%）
3. 退学・除籍者数 196 名（前年度 243 名、前年度比 19.3%減）
4. 全ての授業を「知識教授型授業」から「考える学習型授業」へ変革
「考える学習型授業（豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソンを育てるため、学生と教員が双方向で進める授業）」の現行カリキュラムへの導入割合 76.2%
5. ルール・マナー修得、就職率アップにつながる学生のクラブ・サークル加入
クラブ加入率 35.1%、サークル加入率 20.0%
6. ゼミ担当教員、就職部職員、クラブ顧問・副顧問による就職活動支援
就職率 98.7%
※就職希望者に占める就職内定者の割合
7. 商業系高校・協定高校との関係強化に繋がる高・大・企業連携推進
ビジネスセミナーへの参加 5 校、協定校 12 校、高大連携協議会 6 校参加
8. 兵庫県内に本社がある企業約 900 社（従業員 100 名以上）への就職実績 547 社（前年度プラス 88 社）
9. 中四国県内に本社がある企業約 200 社（従業員 100 名以上）への就職実績 118 社（前年度プラス 16 社）
10. 第四次中内学園中長期計画（2020～2024 年）の策定完了。2020 年度より運用開始。